（別紙様式３）

令和３年３月３１日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　山形県山形市松波二丁目８－１
管理機関名　山形県教育委員会
代表者名　教育長　菅間　裕晃

令和２年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を，下記により提出します。

記

１　事業の実施期間

令和２年４月２０日（契約締結日）～令和３年３月３１日

２　指定校名・類型

学校名　山形県立山形東高等学校
学校長名　須貝　英彦
類型　グローカル型

３　研究開発名

ふるさとやまがたの課題に立ち向かうグローカルリーダーの育成

４　研究開発概要

将来、グローバルな視点をもって、ふるさとやまがたの課題に果敢に立ち向かうリーダーとして、国内外で活躍する人材を育成するための教育プログラムを、地域の行政機関や専門組織、高等教育機関等と連携して開発する。具体的には全授業に探究型学習を取り入れたり、全ての校内活動（学校行事や部活動等も含む）を、探究型のＰＤＣＡサイクルを意識して実施したりするとともに、地域のコンソーシアム機関及び連携協力機関と協働して「山東探究塾」と称する総合的な探究の時間における課題解決研究等の探究活動の教育プログラムの構築及び活動内容の充実化を図る。

５　学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

・学校設定教科・科目　[開設している]　・　開設していない
・教育課程の特例の活用　活用している　・　[活用していない]

６　運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
奈須　正裕　氏	上智大学・教授	学識経験者（総合的な探究の時間）
森田　智幸　氏	山形大学・准教授	学識経験者（探究型学習）
小川　悠　氏	社団法人 i.club･代表理事	学校教育に専門的知識を有する者（地域と協働した探究活動）
米本　泰　氏	２年次ＰＴＡ副委員長	保護者・地域住民の視点を有する者
長谷川吉之介氏	１年次ＰＴＡ副委員長	保護者・地域住民の視点を有する者

7　高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
山形市	市長　　佐藤　孝弘
公益社団法人 山形県観光物産協会	専務　　小野　真哉
東北芸術工科大学	学長　　中山　ダイスケ
山形経済同友会	代表幹事　鈴木　隆一
山形県教育委員会	教育長　　菅間　裕晃
山形県立山形東高等学校	校長　　須貝　英彦

他、東北大学、山形大学と教育連携協定を結んでいる。

8　カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	佐藤　俊一　氏	山形大学・教授	
海外交流アドバイザー	エスタ　ウェア　氏	山形東高校・講師	非常勤雇用
地域協働学習支援員	森　美千子	山形東高校・教頭	

9　管理機関の取組・支援実績

（1）実施日程

業務項目	実施日程											
a）発表会における研究助言及びコンソーシアム連絡協議会・運営指導委員会における指導助言	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
					○			○			○	
b）生徒の課題研究や探究活動の発表機会の提供	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			○		○		○	○	○			
c）探究型学習推進のための教員の研修機会の提供	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
				→	→	○	→	○			○	

（2）実績の説明

①管理機関による事業の管理方法や地域において構築するコンソーシアムの構成、カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置について

・管理機関である山形県教育委員会が、事業費や研究開発の内容について、計画・実施・報告等について指導助言行うとともに、コンソーシアム機関との連絡協議会や運営指導委員会の際に、各コンソーシアム機関の担当者や研究助言者等の意見や要望を把握している。

・カリキュラム開発等専門家は、事業に関する情報提供やアドバイスを、随時無報酬で依頼している。海外交流アドバイザーは、山形県教育委員会が高校の非常勤講師として雇用。地域協働学習実施支援員は、教頭２人制を導入し、内１名の教頭が担当している。

②管理機関による主体的な取組について（コンソーシアムによる取組も含め記入すること）

・探究型学習推進事業の取組（職員の校外研修の実施及び校内研修）のための講師謝金・旅費、訪問研修の旅費の支援等

・国際探究科の教育プログラムの支援（海外研修に係る旅費等）

③事業終了後の自走を見据えた取組について（前記（１）実施日程のａｂｃ）

ａ）プレ発表会（８月）・中間発表会（１１月）・成果発表会（２月）において、生徒の課題研究発表に対する指導助言を行うとともに、同日に開催したコンソーシアム連絡協議会

と運営指導委員会において、事業の運営等に対する指導助言を行った。

ｂ）主催事業の医進塾において、探究活動及び発表会を設定（６月・８月・１０月）。生徒の地域課題研究の発表の場として「郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト」を主催（１１月）するとともに、「山形県課題研究発表会」を主催（今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、１２月にオンラインで実施）。

ｃ）「令和２年度各教科等探究型学習推進事業」を主催（新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて予定を変更し９月・１１月・２月に実施）するとともに、各教科の探究型学習推進講座（於：県教育センター）の実施（７月～１１月）。

④高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

・東北大学（令和３年３月まで）・東北芸術工科大学・山形大学・山形市と教育連携協定締結

１０　研究開発の実績

（１）実施日程

実施項目	実施日程											
ａ）１年次生「山東探究塾Ⅰ」（総合的な探究の時間）・教科「情報」等での探究活動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
				プレ発表会の参観		ミニ発表		中間発表会の参観			成果発表会の参観	テーマ発表
ｂ）１年次生大学訪問（研修）・コース別校外研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
					大学研修				コース別研修			
ｃ）１年次生グローバル学習・活動（講演・交流）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
						講演			交流			講演
ｄ）２年次生「山東探究塾Ⅱ」（総合的な探究の時間）・「課題研究」等での探究活動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
				プレ発表				中間発表			成果発表	
ｅ）２年次生グローバル学習・活動海外研修（今年度中止）・英語発表	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
				説明会						英語発表①②	英語発表③	講演会報告書
ｆ）２年次生郷土研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
							郷土研修					
ｇ）３年次生「山東探究塾Ⅲ」（総合的な学習の時間）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		研究集録	論文等	志願理由書①			志願理由書②			志願理由書③		

（２）実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

ｉ）１年次生の実績（前記（１）のａｂｃ）※他年次と合同の内容は高年次に記載

月日・行事・対象	内容
令和２年４月２８日（火） 新入生オリエンテーション	「山東探究塾と探究型学習」講師：本校教育企画課長　本宮康寛
５月２０日（火）	ビブリオバトル説明会（オンライン）　講師：教育企画課　笹木覚
５月２８日（木） ６月１１日（木）	ビブリオバトル予選①　班予選 ビブリオバトル予選②　クラス代表者決定戦
６月２５日（木） 探究活動オリエンテーション	「探究活動の基礎（デザイン思考）を学ぶ」（講義・ワークショップ）講師：東北芸術工科大学教授　柚木泰彦　氏
８月２０日（木） 東北大研修	全体会：「大学の魅力と山東生に期待する学びについて」（講演） 講師：東北大学 高度教養教育・学生支援機構 特任教授樫田豪利氏

	分科会①：「各学部の学びについて」（模擬講義） 講師：東北大学各学部教授・准教授・講師８名 分科会②：「学生生活と高校での学びについて」（座談会） 本校 OB・OG（東北大生）１４名
９月８日（火）	ビブリオバトル・クラス対抗校内大会 （上位２名・県大会出場）
９月１７日（木） 先輩からのメッセージ	（やまがたのスペシャリストに聞くトップセミナー） 「ローカルテレビのお仕事～私が地元山形に戻ってきた理由～」 （講演）講師：山形放送株式会社仙台支社　佐藤大奨　氏
９月～１０月	ミニ発表会（ポスター発表）　教科「情報」における発表会
１０月１日（木） グローカルリーダー人材育成講話	「山形県の魅力とその発信について～コロナ禍における観光の視点より～」 （講義）講師：山形県観光物産協会　専務理事　小野真哉　氏
１０月２日（金） 職業人インタビュー	パネルディスカッション（一部オンライン） 国内外の卒業生５名
１０月１４日（水） 教科・公民「現代社会」の時間	山形東高校における「生徒と県議会議員の意見交換会」 県議会議員６名
１１月５日（木） 課題研究ガイダンス	「課題研究ガイダンス～探究活動を意義あるものにするために～」 （講義）講師：本校教育企画課　笹木覚
１１月１７日（火） マイプロジェクト講座	「マイプロジェクトについて」（講義・ワークショップ） 講師：東北芸術工科大学　教授　岡崎エミ　氏
１２月３日（木）	課題研究弟子入り講座　講師：２年次生研究グループ
１２月８日（火） 国際探究科志望者	タイの高校とのオンライン交流会　主催：ユネスコアジア文化センター　Suksanareewittaya School の生徒・教員交流会
１２月２３日（水） コース別校外研修 理系・理数探究科志望者	＊山大工学部「学部説明」講師：副学長 教授 湯浅哲也氏 ＊「ウイルスを退治する医薬品の話」講師：教授　今野博行　氏 ＊有機ＥＬイノベーションセンター／スマート未来ハウス等（施設見学・事業説明）
１２月２４日（木） コース別校外研修 文系・国際探究科希望者	「探究活動のためのデザイン思考実践」（講義・ワークショップ） 講師：東北芸術工科大学　教授　柚木 泰彦 氏
令和３年１月１４日（火） 文理別探究演習 文系・国際探究科希望者	「デザイン選手権講座」（ワークショップ） 講師：東北芸術工科大学　教授　ボブ田中　氏、他学生６名
１月２１日（木）・ ２８日（木） 文系・国際探究科希望者	「模擬国連講座」 講師：教育企画課 佐々木隆行・慶応大学 長澤パティ明寿 氏
１月１４日（火）・２１日（木） 文理別探究演習 理系・理数探究科志望者	「数学・情報／生物・物理／化学」文理別研修 講師：本校各教科（文理）担当教員
１月２８日（木） 文理別探究演習 理系・理数探究科志望者	ＳＤＧｓ等環境学習会 「エネルギー問題への科学的アプローチ（水素の発生実験）」 講師：山形大学　教授　栗山恭直　氏
２月９日（火） テーマ検討相談会	「探究活動の意義について」（講話） 講師：教育企画課　佐々木隆行、３年次生（進路決定者）
２月９日（火） テーマ検討相談会	「探究活動の意義について」（講話） 講師：教育企画課　佐々木隆行、３年次進路決定者
２月２５日（木） テーマ検討相談会	探究活動テーマ相談会 講師：東北芸術工科大学　教授　岡崎エミ　氏 他、各コンソーシアム機関担当者
３月１日（月）	先輩へのインタビュー 東京大学校推薦型入試合格者３名（３年次生）
３月１８日（水）	山東探究塾Ｉ・課題研究テーマ発表会　助言者：校内職員

ⅱ）２年次生の実績（前記（１）のｄｅｆ）

月日・対象	内容
令和２年３月～７月	研究・調査・実験（実践）等の探究活動を行う。
７月９日（木）他、随時	「研究相談会」各コンソーシアム・研究協力者（所属・氏名は「研究開発実施報告書(第２年次)」に掲載、以下同様）
７月９日（木） 出前授業・２年次希望者	「見ること、認識することとは？」（講義・演習） 講師：山形県立産業技術短期大学校　知能電子システム科 教授　間宮　明　氏
８月４日（水） １・２年次全員	＊山東探究塾Ⅱ・課題研究プレ発表会（一部オンライン） 助言者・研究協力者５４名
８月～１１月	研究・調査・実験や実践、各種大会での発表等の探究活動実践
９月３日（金） ２年次対象生徒	地域振興・暮し改善研究ブラッシュアップ講座 講師：ｉｃｕｌｂ　代表理事　小川　悠　氏
１０月２日（金） 郷土研修 ２年次生全員	＊午前「山形県の企業について」（講義） 講師：山形大学人文社会科学部　准教授　吉原 元子 氏 ＊午後「企業訪問」（６コース・１２社） ・東和薬品株式会社、ミクロン精密株式会社、 ・株式会社ハッピージャパン、株式会社デンソーFA 山形 ・株式会社山本製作所、山形カシオ株式会社 ・ＮＥＣパーソナルコンピュータ株式会社、米沢浜理薬品工業株式会社 ・慶應義塾大学先端生命科学研究所、Spiber 株式会社 ・ｿﾆｰセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社、株式会社高研
１０月２３日（水） １・２年次全員	山東探究塾Ⅱ・課題研究レベルアップ講座 講師：東北芸術工科大学　専任講師　矢部寛明　氏 研究発表校５校、参観校：４校
１１月１２日（木） １・２年次全員	＊山東探究塾Ⅱ・課題研究中間発表会・外部発表審査会 （一部オンライン）　審査員・助言者・研究協力者約４３名
１１月～令和３年２月	研究・調査・実験や実践、各種大会での発表等の探究活動実践
２月３日（水） １・２年次全員	＊山東探究塾Ⅱ・課題研究成果表会（一部オンライン） 助言者・研究協力者約４０名
３月５日（金） グローバル人材育成講座 １・２年次全員	「国際社会でいきる・いかす～英語を通じて知る世界～」 （講義・オンライン） 講師：灘中学校・高等学校　教諭　木村達哉　氏
３月２５日（木） １・２年次生有志	CHALLENGE 模擬国連 in 山形東 本校の探究部地域交際探究班が、県内の高校に呼び掛けて、対面（一部オンライン）の模擬国連を主催。

ⅲ）山東探究塾Ⅱ課題研究の取組について

２年次生全員が取り組む探究活動のテーマや課題設定は、生徒の主体的な取組になるように、あくまでも各自の興味・関心や意欲に任せている。研究に取り組むメンバー決めについても、原則的にはグループ研究を推奨しているが、主体性を優先し、個人研究も認めている。同様に、研究が進む中でグループの分離・融合、メンバーの入れ替え等も認めており、文理融合したグループを組んだり、１人で複数の研究に取り組んだりする生徒もいる。

テーマについては、便宜的に国際・地域振興・暮し改善・防災減災・ものつくり・人文・情報・数学・物理・化学・生物の１１分野のいずれかに分類させるとともに、今年度はグローバルな視点をより意識させるために、ＳＤＧｓ１７の目標も付すようにした。研究が進む中で、それぞれの課題やゴールが変化することも想定し、研究テーマ及び取組分野の変更も柔軟に認めている。１年次より取り組んでいるテーマや、先輩の研究を引き継いだテーマも含めて、今年度の成果発表会では８８本のグループまたは個人研究がそろった。（詳細については、「研究開発実施報告書(第２年次)」に掲載）

ⅳ）３年次生の実績

月日・対象	内容
令和２年３～５月（休業中）	各自・各グループで研究のまとめと研究収録の原稿を作成する。
５月２８日（木）	「山東探究塾Ⅲ計画と見通しについて」 講師：本校教育企画課　佐々木隆行
６月４日（木）	＊探究ノートⅢの活用について ＊自己の在り方に関わる作文の取組（取組例）
６月１１日（木）	研究収録原稿の完成
６月１８日（木）	「自己ＰＲのポイント」作成の取組（ワークシート）
６月２５日（木）	志願理由書作成演習
６月１９日（金）	進路講演会「来年の受験にどう向かうか」 学校法人河合塾　営業部長　高橋章　氏
７月２日（木）～３日（金）	「アピールする小論文の書き方について」（説明・小論文の取組）
６月～、８月２８日（金）～３０日（日）全校生徒	探究実践「コロナ禍における学校祭のあり方」 各ＨＲ、各部署チーフを中心に計画・準備・実践
９月２５日（金）	羽黒山フィールドワーク
１０月２９日（木） １～３年次生全員	創立記念講演 「日本の未来、山形の宝 山形東高生へ～東方・西方見聞録～」 講師：ミクロン精密㈱　代表取締役社長　榊原憲二　氏

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間，学校設定教科・科目等）

＊１年次・２年次普通科・国際探究科：総合的な探究の時間

＊２年次理数探究科：課題研究＋総合的な探究の時間

＊３年次：総合的な学習の時間

１年次・３年次は全員が同じ教育プログラムを実施し、１年次はまとめ取りも含めて１年間に渡って、３年次は前期に計画して取組んでいる。２年次は文理融合の研究を想定し、文系の生徒と理系の生徒が一緒に取り組むことができるようにするために、また実験・実習等の場所の確保のためにも、総合的な探究の時間を文系・理系２クラスずつ同時展開するような時間割を組んでいる。さらに、放課後や休業日の活動も行うことができるように、課外で行う探究活動は部活動（探究部）として認めるなど、工夫している。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ，教科等横断的な学習とする取組について

１年次の教育プログラムと関連させながら、教科「情報」において、地域課題やSDGsに関連したものを教材にして調べ学習を行ったり、ポスターを作成したり、発表したりする他、統計や著作権について学ぶことで、探究活動に必要な学習スキルやリテラシーを生徒に身につけさせる工夫をしている。また、全教科の教員が研究分野を問わずに２年次の研究の担当することで、授業の中で研究内容を意識した指導や指摘もできるように企図している。さらに、２年次国際探究科の教科「英語」の「総合英語」や「異文化理解」の科目では、自らの課題研究を題材に、英語発表に取り組むことで、英語コミュニケーションのスキルを身につけさせる取組を行っている。

３年次は身についた（身につけさせたい）応用・転用力、俯瞰力、創造力、イノベーション力を活かして教科等横断的な学びにつながるような授業展開を開発中である。（年度末職員研修会を実施）

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制及び、学校全体の研究開発体制について

本校では、校長の下、教頭及び教育企画課が推進の主体となり、各コンソーシアム機関や教育連携機関の担当者と連絡を密にしながらカリキュラム・マネジメントを行っている。課題研究学術分野に関しては、教育に関する連携協定を締結している東北芸術工科大学、山形大学、東北大学の指導・助言を受けるとともに、地域課題については、山形市や山形県観光物産協会、経済同友会等コンソーシアム機関の他、ＪＩＣＡ東北や県の組織・機関、様々な地元企業や団体等から

の情報提供や指導助言を受けながら、「山東探究塾」（総合的な探究の時間）及び「課題研究」（理数探究科の科目）、「ＳＧ人文ゼミ」（国際探究科の総合的な探究の時間）等の教育プログラムを実践している。

本校の研究開発においても、校長の下、教育企画課が中心となって推進しているが、特に研究開発においては、山形県教育委員会が実施した、探究科等設置校における探究型学習を推進するためのコーディネートや指導力向上に関する研修を経験した「中核教員」が果たす役割が大きい。（平成２９年度は福井県立藤島高等学校、平成３０年度は石川県立金沢泉丘高等学校、令和元年度は京都市立堀川高等学校を主な研修先として全国の先進校の取組を研修）中核教員を通して先進校の取組を知ることが出来、教育プログラムの研究開発に大いに還元されている。

生徒の探究活動の指導には全職員が関わっている。とりわけ特に山東探究塾Ⅱの課題研究は、８０本以上の研究があるため、多くの教員を割り当てるが、必ずしも担当教科に関わらず、１人が複数の研究を担当することになっている。前述のとおり、あくまでも生徒の主体的な研究であるため、担当者は主に研究の進捗を把握し、実践においては必要に応じて専門的知識を持つ校内外の人材を紹介したり、校外活動の手続きや連絡・報告等を行ったりするなど渉外的な役割を担っている。渉外業務は、教育企画課を通じて、校長・教頭に連絡・報告・相談を行う体制も整えており、全校あげて探究活動に取り組んでいる。

⑤学校長の下で，研究開発の進捗管理を行い，定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ，計画・方法を改善していく仕組みについて

全ての研究開発の教育プログラムは、実施毎に担当者が校長に起案するとともに、事後の報告を行っている。外部講師を招いた講座等の教育プログラム等において、生徒には各自「探究ノート（ファイル）」に学習成果を記録させるとともに、生徒の感想等、講師から求められる事業評価についてもForms等で回答させるしくみを整え、即時性をもって把握するよう努めている。また、年３回実施する課題研究発表会と、それまでの相談会や事業毎に、外部機関や地域人材による感想や要望、事業評価について、次の事業の実施計画に反映させるような発展的ＰＤＣＡサイクルを構築している。コンソーシアム連絡協議会や運営指導委員会における指導助言については、職員会議の機会に報告しながら全職員で共有し、その都度改善に努めている。

⑥カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

＊東北芸術工科大学（コンソーシアム機関）における「デザイン思考」の講座、「マイプロジェクトアワード」講座、「デザイン選手権」講座の実施　等

＊山形県観光物産協会（コンソーシアム機関）による台湾の高校との国際交流の提供　等

＊山形市役所（コンソーシアム機関）による山形市コミュニティファンド（市民活動支援基金）の機会の提供、ユネスコ創造都市ネットワーク及び国際ドキュメンタリー映画祭の協働の機会の提供、他課題研究のテーマに合わせた協働の取組や発表の機会の提供等

＊山形大学（連携協力機関）による課題研究や探究型学習等の各種講座、模擬講義等、学習機会の提供　等

＊東北大学（連携協力機関）による学術研究についての模擬講義や出前講座、各種講座等学習機会の提供　等

＊山形県立産業技術短期大学校による学術研究についての出前講座等、学習機会の提供 等

⑦運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

上智大学教授の奈須正裕氏及び山形大学准教授森田智幸氏には、それぞれ総合的な探究の時間における探究活動や、探究型学習を取り入れた授業改善について、授業参観していただきながら職員研修でご指導いただいた。また、社団法人i.club・代表理事の小川悠氏には、研究担当教員へのアドバイスとともに、地域課題解決に取組む生徒に対してブラッシュアップ講座でご指導いただいた。保護者・地域住民の視点を有する方として、２年次ＰＴＡ副委員長の米本泰氏と１年次ＰＴＡ副委員長長谷川吉之介氏に、発表会を参観していただきながら本事業の運営に対する指導助言とともに生徒の普段の学習や探究活動への取組の様子等、情報提供もしていただいている。

⑧類型毎の趣旨に応じた取組について

ｉ）「山東探究塾」

普通科・探究科ともに全生徒が取り組んでいるが、２年次探究科は、理数探究科・国際探究科ともに１単位時間多く取り組んでおり、国際探究科は学校設定科目「ＳＧ人文ゼミ」と総合的な探究の時間の２時間を実施。理数探究科は「課題研究」２単位で総合的な探究の時間を代替しており、評価も行っている。

ⅱ）１年次大学訪問・コース別研修等校外研修について

大学訪問は、普通科・探究科ともに東北大学で実施していたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、本校に講師や卒業生を招聘したり、一部オンラインを取り入れたりするなどしながら実施した。

コース別研修は、例年普通科文系志望者が東北芸術工科大学におけるデザイン思考講座を受講、普通科理系志望者は山形大学工学部の模擬講義の受講と施設見学、理数探究科志望者は東北大学研究室訪問、国際探究科志望者は東北大学グローバルセンター及びＪＩＣＡ東北訪問を行っていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、東北大学の訪問が出来なかったために、国際探究科は普通科文系と、理数探究科は普通科理系と同じ研修にすることで、中止することなく実施することができた。

ⅲ）２年次 海外研修について

国際探究科生徒を中心に実施予定の海外研修は、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大の影響から、生徒及び保護者に説明する７月の時点で、１月のシンガポールへの渡航の見通しが立たなかったため、国内で同様の学びができる交流校の検討を行った。多くのグローバル人材を輩出している沖縄県立那覇国際高校の国際科にカリキュラム開発専門家の佐藤俊一氏を通じて依頼をしたところ、快諾いただいたことから、沖縄研修に変更して準備を進めるとともに、シンガポールとの交流はオンラインで実施する準備を始めた。

しかし、１１月から新型コロナウイルス感染症が再拡大し、１２月の説明会の時期には本県でも感染者が急増。参加を希望する保護者や生徒からも不安と実施の是非についての声がある中、Go　To トラベルキャンペーンの一時停止と首都圏の緊急事態宣言が発出される事態となり、実施直前に沖縄研修を中止せざるを得なかった。

海外研修で企図していた英語コミュニケーションの機会をなんとか増やそうと、県内のＡＬＴ及び山形市と山形県の国際交流員を招聘して英語発表の指導や異文化交流をしていただいた。また、シンガポールとは株式会社アイエスエイ及び株式会社デジコンキューブの共催によりオンラインで発表会・交流会を実施した。

⑨成果の普及方法・実績について

＊地域と協働した生徒の探究活動について、広くその取り組みを広報するために、オンラインも含めて、各種学会や大会、発表会等、校外での発表を促している。学校に届く案内や実施要項、成果等は、G suite の classroom や、校内の専用掲示版で随時知らせている。

＊課題研究や地域と協働した活動等、優れた取組をしている県内の先進校と、評価者である大学の講師を招いて、研究発表を行う課題研究のレベルアップ講座を開催した。その際、本校と同様に地域と協働した探究活動に取り組もうとしている山形市の高校の教員や生徒も招いて、共に研修を行った。

＊本校で実施する外部講師を招いた職員研修会や年３回の発表会・コンソーシアム連絡協議会にも山形市の高校や同じ探究科・探究コースを設置する高校の教員に参加していただきながら、カリキュラムモデルとなるような取組を一緒に研修できるよう工夫している。

＊事業における本校の取組や生徒の研究内容について広く知っていただくために、県内の教育関係者や各高等学校にも案内している。コロナ禍ということもあり、当日来られない方や保護者には発表動画を YouTube の限定公開で観ていただく等、工夫している。

＊地域と協働した教育プログラムの内容や生徒の探究活動について、積極的にＴＶ局や新聞社・教育雑誌等の取材を促す広報活動を行うとともに、取材の依頼は積極的に受けている。報道を見た教育関係者等から、事業の実施方法等、様々な問い合わせも多くなっている。

１１　目標の進捗状況，成果，評価

（目標 1-a）今年度は新型コロナウイルス感染症拡大による休校及びその後の授業時数の確保を優先させたため、対象である３年次生は数値目標の基礎データとするＧＴＥＣを受検できなかった。そのため、目標値の達成については残念ながら報告できず。
（ただし、昨年度のうちに全員が CEFR Ｂ１レベル相当に達している。）

（目標 1-b）現３年次生徒の地元大学進学予定者は目標進学者１５％（３６人）以上に対し、１３．６％（３３人）であった。内、山形大学医学部医学科進学予定者は目標１０人に対し、９人ということで、ほぼ達成したと言える結果であった。

（目標 1-c）校外発表件数：今年度、コロナ禍でオンラインとなったり、中止された大会も多かったが、外部発表等の取組は、のべ６２件（のべ１９２人の参加）であった。
（受賞内容も含め、詳細については、「研究開発実施報告書(第２年次)」に掲載）

（目標 2-a）コロナ禍においても、外部の助言者を招いたり、一部オンライン発表にしたりしながら、プレ発表会・中間発表会・成果発表会の３回実施した。

（目標 2-b）現３年次生が、１年次で１１回、２年次で９回、３年次で２回の計２２回実施。

（目標 2-c）現３年次生は、授業で英語ディベートや英語発表に取り組ませた他、国際探究科全員と希望者は課題研究の英語発表を行っているので、100%となっている。

（目標 3-a）事業担当指導主事によるプレ・中間・成果発表会における指導助言を行った。コンソーシアム連絡協議会への出席、運営指導委員会を開催し、その中で指導助言を行った。

（目標 3-b）コンソーシアム連絡協議会を年３回実施する中で、助言者全員から発言していただき、検証の参考にしている。

＜添付資料＞目標設定シート（実績値入り）

１２　次年度以降の課題及び改善点

（１）山東探究塾Ⅲの教育プログラムの開発
前期に集中して実施を計画していたため、新型コロナウイルス感染症拡大による休業の影響を受け、十分なプログラム開発が出来なかった。来年度は今年度の振返りと成果を活かしながら、教育プログラムの充実と完成を図りたい。

（２）全学校教育活動への反映
生徒に身についた資質・能力を検証しながら、授業や行事等、全学校教育活動との関連性を持たせながら、開発した教育プログラムを完成していきたい。

（３）事業終了後の自走体制の構築
地域の各コンソーシアム機関や連携協力機関、研究協力者との協働について、どのように維持・継続していくか、各機関担当者等と十分に話し合いの機会を設ける。

（４）成果発表会の開催
２月の成果発表会の際には、本事業による地域と協働した探究活動を行った生徒の研究や本事業により開発した教育プログラムや総括についての発表を、県内の高等学校、教育関係者、コンソーシアム機関、連携協力機関、研究協力者等に向けて行うとともに、この事業全体の評価を各運営指導委員の方にお話ししていただく機会を設ける。

【担当者】

担当課	山形県教育庁高校教育課	ＴＥＬ	023-630-2869
氏　名	阿部　真直	ＦＡＸ	023-630-2774
職　名	指導主事	e-mail	abemasana@pref.yamagata.jp